



出動ゼロでありたい

火が恋しい季節です 火災の発生に十分注意を

私たちは普段から台所などでごくあたりまえに火を使つて暮らしており、火は日常生活に欠かせないものとなつています。さらに、この時期になると、朝夕の冷え込みが増し、暖房器具に頼らざるを得なくなり、火の利用が増えます。普段から使い慣れておる火ですが、一つ間違つと火災の発生につながり、一瞬にして家財を灰にしてしまふばかりか、人の命まで奪いかねません。火の怖さを再認識し、火災を起こすことのないよう十分注意したいものです。

できてますか？ お宅の

火の用心

火災発生 の 現状

全 国 ―犠牲者の半数は高齢者―

平成七年一年間に発生した火災（放火を除く）は約六万二千九百件。およそ八分に一回、全国どこかで火事が起きていることになりました。住宅火災による死者は九百三十九人。建物火災による死者総数の約八五%を占め、住まいの火災をいかに防ぐかが人命を守

るカギになっていきます。

火災による死者の中で、特に目立つのが高齢者です。平成七年一年間に、住宅火災で亡くなった九百三十九人のうち半数を超える五百三人が六十五歳以上の高齢者でした。

亡くなった主な理由は体力の衰えや病氣、体が不自由であったための逃げ遅れです。石油ストーブや電気製品の不注意な使用によって、一人暮らしのお年寄り自身が火災を引き起こすケ

スも少なくありません。

大館市 ―今年増加傾向―

過去十年間（昭和六十一年～平成七年）に発生した火災の件数は二百五十件。このうち約八〇%の百九十六件が建物火災で、建物焼損棟数は二百四十一棟です。また、この間の火災による死者は十一人、負傷者は三十三人、損害額は八億円を超えています。火災の原因は図（図一）のようになっています

